

第2次黒部総合振興計画審議会

第4回第2部会【産業・観光】

議事概要

日時：平成29年7月31日（月）15:30～

場所：黒部市役所 203 会議室

出席者：委員8名（代理1名、欠席1名）、専門委員1名（欠席なし）

幹事1名（欠席なし）、計画主任4名（欠席なし）、事務局4名

次第

1. 開会
2. 部会長あいさつ
3. 報告事項
 - (1) 前回審議会以降の経過について
 - (2) 各委員からの意見・提言について
4. 協議事項
 - (1) 基本構想（継続審議事項）について
 - (2) 前期基本計画素案について
5. その他
6. 閉会

主な発言（検討）内容

○：委員からの質問・意見、●：事務局の意見・回答

部会長あいさつ

○部会長：本日は暑い中、ご多用中にも関わらず、第4回部会にご出席いただき感謝申し上げます。本日の部会は基本構想の継続審議に関する事項と前期基本計画素案について審議いただく。活発な意見を通して、黒部市の未来創造に向けて、各委員のご協力をいただきたい。

報告事項

(資料1：前回審議会以降の経過について、
資料2：各委員からの意見・提言について、事務局より説明)

委員からは特に意見なし

協議事項

(資料3：基本構想(継続審議事項)について、事務局より説明)

- A委員：基本方針2の重点メニューの記載方法について、対応する産業がわかりやすくなるよう区分を設けるなど、表現を工夫してほしいと思う。
- 事務局：他の基本方針の記載方法にも影響することが考えられるため、事務局において検討させてほしい。
- B委員：認知症の説明について、もう少し表現を柔らかくしてほしいと思う。
- C委員(島代理)：「社会生活をおくれなくなった状態」を「社会生活に適応しにくくなっている」などとしてはどうか。
- 事務局：現行計画を踏襲しているが、表現を見直したいと思う。
- D委員：将来人口には、移住人口を加味した目標値なのか。それとも加味した目標値なのか。
- 部会長：進学時や就職時の社会移動の減少幅は非常に大きくトータルとして減少しているのではないかと思う。
- 事務局：目標値は社会増減と自然増減を含んだ推計となっており、市として、出生率の増加や定住促進、魅力向上を図り、目標を3万3千人としている。
- D委員：黒部市の場合、黒部市民が他の市町村で働く人数が県内の中で最も少ないと聞いた。つまり、市内の人口が減少することは企業にとっても影響が大きいと言える。今後の市を支える意味としても大きな問題である。
- 事務局：進学期にあたる二十歳前後の年代の流出が多いが、男性は進学を機に県外に出ても、黒部市に戻ってくる人が多い。一方で、女性の場合は、進学で県外に出た場合、戻ってくる人は少ない傾向にある。
- 部会長：つまり、嫁不足になることも考えられるということか。
- D委員：最近では、子世代が都市部で生活している場合、黒部市に残っている親世代を引き連れていくケースが増えており、ますます人口が減少していくように感じる。
- C委員：31ページに記載されている「市街地・住宅整備」には、空き家対策は含まれ

ていると考えて良いのか。生地地区や宇奈月温泉は空き家や空きビルが多く、さらに増加していくと感じており、対応が必要ではないか。

- 事務局：空き家については、34 ページの基本方針6「市内外との連携・交流の促進」に盛り込まれている。空き店舗については、30 ページの「商業の振興」に盛り込まれている内容となる。
- 部会長：他に意見は無いようであるので、次に進む。

(資料4：前期基本計画素案及び今後の基本構想、
基本計画の策定スケジュールについて、事務局より説明)

- 部会長：8 ページの「空き店舗への出店者促進支援累計数」の見方であるが、2022 年は 30 件、2027 年は 35 件が目標に挙げられているため、5 年間で 5 件増やすという見方でよろしいか。
- 計画主任：数値を確認させてほしい。
- B 委員：目標値は、これまでの実績の傾向から設定しているのか。
- 事務局：ご指摘の通りであり、過去の実績等から設定している。
- A 委員：1 ページの農業の振興には農村の振興も含まれていると理解してよいか。また、基本構想の 10 ページには ICT の進展と記載されているが、基本計画 1 ページには IoT の表現が用いられている。類似した表現ではあるが IoT は情報通信のみであり、農業にはロボット技術等のハード的な面も含まれると思う。さらに県からのお願いであるが、県ではこれから地元木材の積極的な利用を促進していきたいと思っている。基本計画において、地元産木材を活用していくことを、強調してほしい。
- 部会長：林業の専門者はいるのか。
- A 委員：林地所有者はいるが、林家は少ない。基本的には森林組合に管理・販売を委託し、利益を得る仕組みである。ただ、販売しても利益が少なく、赤字経営になっているようである。現在の木材の林齢は 40 年前後のものが多く、早期に更新していかなければならない状況にある。そこで、昨年 9 月に県では県産材の利用促進条例を制定し、施策を検討しているところである。
- 部会長：他県と比べて富山は特別な状況と聞いた。
- A 委員：富山県は国有林や保安林が多く、民有林は少ないところであり、類似した県は見当たらない。これまでも利用促進策として、一定の県産材を利用してもらえば差額補填する制度を実施しているが、さらに積極的な施策を打ち出して、山の高齢化を解消していかなければならないと思う。
- 部会長：魚津では小学校を木造にするようであるが、話は聞いたことはあるか。
- A 委員：清流小学校のことかと思うが、全国初の 3 階建ての木造校舎であり、補助の話为国とやり取りしている。強度を保つため、集成材にするなど、単価は高いようで

ある。

- E委員：熊本で見てきた施設はトラス構造で建築基準法も変更したと聞いた。また、枝打ちなどの管理を実施し、質を高めていかなければならないと思う。
- 部会長：基本的に林業も儲からないため、管理に手が回らないのかと思う。
- A委員：林道を整備して、木材を出すといった循環を生み出していかなければならないと思う。
- 部会長：3ページの担い手の農地利用集積率はどのようにして計算するのか。
- 計画主任：担い手は大規模農家が対象であり、主要3作業を担う場合や全面的に農地を借りて耕作する場合の農地割合である。
- 部会長：今後、小規模農家は少なくなっていくということか。
- 計画主任：小規模兼業農家や自給的農家から大規模農家に集積される農地割合となる。
- A委員：県の場合、目標値の算出方法や特殊な用語については、備考に記載している。
- F委員：8ページの「若者・女性の創業支援」はどのようなことを実施しているのか。
- 計画主任：先ほどの空き店舗への出店者促進支援累計数と合わせて説明させていただきたい。空き店舗の累計数は5年間の計画期間の累計数、若者・女性の創業支援累計数は過去からの延べ数であり、2パターンのある考え方があるため、表記方法を見直したい。若者・女性の創業支援内容としては、空き店舗の新規出店の支援であり、事業承継とあわせて支援していきたいと考えている。
- G委員：最近、商業関係は後継者不足等によって廃業が多い。空き店舗は時間の経過につれ、劣化が大きくなり、解体することとなる。つまり、中心市街地が空き地だらけとなるため、新規創業者とマッチングを行うなど、重点的に考えていかなければならない。
- 部会長：大型店舗が出店しだしてきたことで、商店街の衰退が加速した。これからも通信販売なども進出してきており、今後の動向が見えにくい。
- G委員：一方で高齢者は移動手段がなく、大型店舗に足を運びにくい状況であり、身近なお店が必要である。
- D委員：新しい道路が完成することで、以前の幹線道路沿いのお店の売上は変化する。移動の利便性が高まることで、通過していくことにもつながり、まちなかの店の利用が落ちていくと懸念される。
- 部会長：その他、意見はないか。特に無いようであるため、「その他」について事務局より説明を願う。

(審議会全体会の日程について、事務局より説明)

- G委員：パブリックコメントはどのように実施しているのか。意見を求めるのであれば、広く周知を徹底しないといけないと思う。
- 事務局：基本構想の中間報告案のパブリックコメントは3月末から1か月間実施したところ、5名から7件の意見をいただいている。
- G委員：部会で議論しているような細部についての意見募集は実施しないのか。
- 事務局：パブリックコメントの制度として、細部についてのパブリックコメントを実施することはない。細部については、今回のように専門的な方に検討いただき、取りまとめたものについてパブリックコメントを実施していくこととなる。
- 産業経済部長：A委員から指標について意見をいただいたが、わかりにくい指標については、備考欄に説明を記載するよう検討したいと思う。空き家について、現在黒部市には約1000件を超える空き家があり、すべてが活用できる空き家ではない。動物の棲家や火災の原因になる負の空き家は大きな課題であり、基本構想においても空き家について謳う必要があると思う。事務局で検討してほしいと思う。
- 部会長：そのほか、全体を通じて意見等はあるか。無いようであるため、事務局に進行をお返りする。

閉会

- 事務局：以上をもって、第4回部会を閉会する。第4回審議会全大会は、8月24日(木)14:00から市役所にて開催する。

以上